

平成29年2月24日

報道関係各位

(一社) 南島原ひまわり観光協会 オーライ！ニッポン大賞受賞

このたび『第14回オーライ！ニッポン大賞』に、本市の一般社団法人 南島原ひまわり観光協会（内山哲利会長）が選ばれ、下記のとおり表彰を受けます。

【表彰式】

日時：3月3日（金）14：00～

場所：帝国ホテル 東京

【受賞概要】

南島原ひまわり観光協会は、平成20年の観光協会設立以来、農林漁業体験民宿を推進し、都市部からの修学旅行生を誘致するとともに、海外からの来訪者を含め、年間1万人を超える受け入れを実施してきました。この民泊事業は南島原市が合併して以降一番の成長産業とも言えるもので、旧8町の垣根を越えた新たなコミュニティを形成し、地域を元気にしています。このことが大きく評価され、今回の受賞に至りました。

※「オーライ！ニッポン大賞」

オーライ！ニッポン会議（都市と農山漁村の共生対流推進会議）と農林水産省が主催となり、都市と農山漁村の共生・対流を促進するため、「都市側から人を送り出す活動」、「都市と農山漁村を結びつける活動」、「農山漁村の魅力を活かした受入側の活動」等について優れた貢献のあった者（団体若しくは個人）を表彰しており、内閣総理大臣賞（1件）、オーライ！ニッポン大賞（3件程度）、審査委員会賞（5件程度）を選定しています。

担当部署	企画振興部商工観光課	担当者	中島 英治
直通	0957-73-6632	E mail	kankou@city.minamishimabara.lg.jp
詳しくは 	http://kouryu.or.jp/ohrai/a51k2900000j0oc-att/a51k2900000j0vd.pdf	検索ワード	
担当者 連絡先			

第14回オーライ！ニッポン大賞 11受賞者(概要)

No.	都道府県 市町村	受賞者名	概 要
オーライ！ニッポン大賞グランプリ			
1	栃木県 ましごまら 益子町	NPO法人 トチギ環境未来基地	人手不足で荒廃が進む中山間地域の里山や森林を若者の力で再生するなど、実践活動を通じて次の世代を担う若者を育てることを使命として実施。「若者のチームによる長期間滞在型の森づくり活動プログラム」では4～6名の若者たちが共同生活をしながら近隣の森へ赴き、中山間地域での森づくり活動や地元の人たちとの協力・交流を通じて新たな発見や気づきを得て成長することを目指している。平成21年から取組を開始し、7年間で1万3千人を超える参加者となっている。 
オーライ！ニッポン大賞			
2	北海道 さらべつむら 更別村	国際トラクターBAMBA実 行委員会	地域活性化の起爆剤として、トラクターを「ばんえい競馬」に見立てた「BAMBA競技」を開催。実行委員会には、大人だけでなく地元の更別農業高校の生徒も加わるなど、村が一丸となって実施。現在では知名度が飛躍的に向上し、平成15年から実施している当該イベントには、人口約3,300人の村に観客2万人が集まるようになっている。 
3	高知県 高知市	NPO法人 とさやま 土佐山アカデミー	地域内外から多様な人々が集う「学びの場」を目指し、地域の課題を資源と捉え、循環型のシンプルで丁寧な生きかたを知るきっかけを提供する事によって、より豊かな社会づくりを目指す人材の育成を支援。平成23年以来5年間で延べ7,500人以上が受講。研修では、地域おこし協力隊の研修のみならず、高知県庁や大手企業本社等からの人材育成研修を実施している。 
4	長崎県 みなみしまほらし 南島原市	一般社団法人 みなみしまほら 南島原ひまわり観光協 会	平成20年の観光協会設立以来、農林漁業体験民宿を中心に受入を増やすなど、グリーン・ツーリズム事業を推進し、都市部からの修学旅行生を誘致するとともに、海外からの来訪者を含め、年間1万人を超える受け入れを実施。この民宿事業が市では近年一番の成長産業となり、旧町間の垣根を越えた新たなコミュニティを形成し、地域を元気にしている。 
オーライ！ニッポン大賞 審査委員長賞			
5	栃木県 おおたわらし 大田原市	おおたわら 大田原グリーン・ツーリス ム推進協議会 (株)大田原ツーリズム	地域活性化と農業発展を図るためグリーン・ツーリズムを中心とした地域振興を実施。取組みでは企業を辺地にある廃校に呼び込んだり、耕作放棄地を使った再生体験を提供するなど、社会課題をあえて体験の提供の場として逆の発想で人を呼び込んでいる。専業農家による農業体験や農泊体験等が徐々に浸透し、平成28年度は交流人口が約8,000人と見込まれる状況となっている。 
6	東京都 ひのほらむら 檜原村	一般社団法人 ゆくほしゆく 湯久保宿	築約200年の茅葺き古民家「屋号：カンヤクボ」を拠点とし、車が入れない山の生活道・沢水・山菜等を活用した体験型研修プログラムを設け、自然と共生する山の暮らしを提案し、実践的に学ぶことができる場所を提供。この活動により年間交流人口は700～800人となり、イベントを重ねるごとに移住者が増加し、19年世帯が集落の66%を占める状況で、民家への下宿や空き家再生などの移住準備も進められている。 
7	東京都 ぶんきょうく 文京区	(株)リディラバ Ridilover	「社会の無関心を打破する」を理念に掲げ、社会課題の当事者以外の人々の関心の喚起と解決への仕組みづくりを目指し、社会課題の現場を訪れるスタディツアーや教育旅行等を企画し年間1,500人が利用。中でも都市農村交流においては、地方ならではの魅力、課題解決への取り組み、地方での働き方と新しいライフスタイルの提案など、参加者へ現場訪問を通して提供し、多くの移住・定住がなされるよう推進している。 
8	兵庫県 いらかわらよう 市川町	(株)棚田LOVER's	「美しい棚田を将来につなげたい！」という想いのもと、生物・農・食の大切さの継承や棚田の保全を目的として10年間取り組んでいる。田植え・稲刈り等の農作業体験や大学・商店街での試食会、農楽カフェ、生き物調査、有機農業講座等も実施。さらに、移住者の支援、貸し農園の運営、担い手を増やすための婚活など、幅広い体験プログラムを年間約50回実施し、参加者数は年間約2万人、累計参加者数13万人を超える取り組みとなっている。 

No.	都道府県 市町村	受賞者名	概 要	
オーライ！ニッポン ライフスタイル賞				
9	青森県 鱒ヶ沢町	ながい かつと 永井 雄人	<p>白神山地の登山ガイド養成講座の講師を務めた経験から、<u>廃校となった小学校を自然体験や白神の歴史を伝える「白神自然学校ニツ森校」として開校</u>。首都圏から訪れる子供たちの受入れ先として農家民宿(現在9件)を育成するとともに、<u>廃校舎の一部を農家レストラン及び宿泊施設として改装し、利用するなど、同校を中心とした都市農村交流を実践している。</u></p>	
10	新潟県 小千谷市	さかもと しんじ か な こ 坂本 慎治・香奈子	<p>地域おこし協力隊として赴任して2年目が始まって間もなく、<u>地元有志の組合で運営する豆腐店が高齢化で閉店することを聞きつけ、「どうにかしたい、そして私にとってのチャンス」と直感し、市役所・豆腐運営組織等の支援を得て受け継ぐこととなった</u>。豆腐製造の経験はなかったが、<u>豆腐づくりを一から学び、現在では市内に2店舗を構えるなど取組が広がっている。</u></p>	
11	高知県 香美市	かがや またけお 鍵山 武男	<p>大手物流会社の定年後、<u>郷里高知県香美市土佐山田町の家屋、畑を遺産相続し、親戚、友人等5人で農業法人「榊土佐龍馬の里」を設立</u>。高知の農産物を東京へ販売するとともに、<u>ニンニク加工品を製造販売</u>。郷里の高知と東京を行き来しながら、<u>軸足を郷里に置き、地域の発展と日本にとって必要な一次産業の基盤を充実させたいと願い、その一助になる活動を実施している。</u></p>	